

わごころ通信

発行日：令和4年10月1日
発行元：尾鷲市社会福祉協議会
尾鷲市栄町5-5 TEL.22-3246
HP：<http://www.owasewel.com>
E-mail：info@owasewel.com

『わごころ通信』は、地域全体で生活を支える地域包括ケアの実現に向け、見守りやゴミ出し、買い物などの生活支援体制をどのように整備していくか、この地域の取り組み状況や取り組み内容を生活支援コーディネーターの活動と併せて紹介しています。第7号では市民ボランティアによる助け合いのしくみとして生まれた住民参加型生活応援事業「助っと」と、古江地区福祉委員会の活動を紹介します。

住民参加型生活応援事業



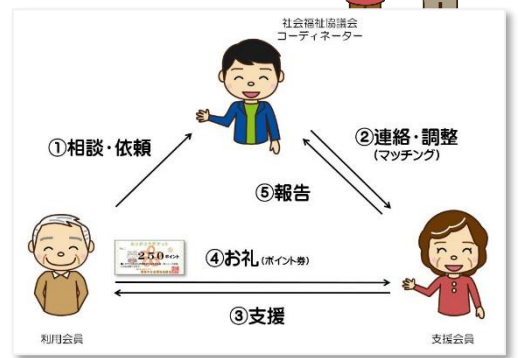
助っと

支援会員募集中!!



前号でご紹介した住民参加型生活応援事業「助っと」は、現在このしくみに賛同していただいた支援会員の皆様と一緒に少しずつ取り組んでいる状況です。この取り組みは、お金を支払って利用するサービスではなく、「支援を必要としている方」と「困っている方がいたら手伝うよ!」という方を一定のルールの中でご紹介し、助け合いをしやすいしくみです。

現在、支援会員同士で話し合い、**買い物**のお手伝いと**ごみ出し**のお手伝いから実施しています。取り組み始めたばかりでまだまだ支援会員が少なく、支援可能な方が近くにいない場合など紹介できない場合もあります。支援会員は随時募集していますので、「かまんよ～」という方はぜひお問い合わせください。



「手伝って!」と「かまんよ!」をおつなぎするしくみ



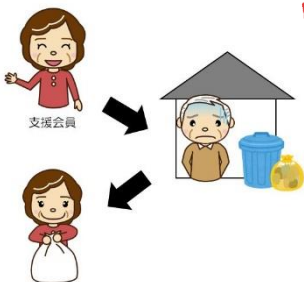
買い物



本人に代わって買い物に行きます。また、歩いていける範囲であれば一緒に歩いて買い物に行き、帰りに荷物を持ったりします。

※ 今のところ車に乗せて行く支援は行いません。

ごみ出し



原則週1回程度、家庭ごみ(可燃ごみ、資源ごみ)を取りに行き、自分の家のごみと一緒に集積所に出します。ごみ出しのルールを考慮してできるだけ近所の方を想定しています。

※ 粗大ごみは対象外です。

取りに行く時間は相談で



Q.都合が悪かったらどうしよう?

A.支援の日時は利用会員と支援会員とで話し合っていますが、都合が合わない場合は別の支援会員が代わりに支援に入ります。このあたりがしくみとしてやるメリットでもあります。

わがらのまちの支え合い活動紹介



古江地区福祉委員会

古江地区福祉委員会は平成9年12月に結成され、お互いに気かけ合えるまちづくりを目指し、ふれあい訪問やふれあいサロンに取り組んでいます。「**20年前**に比べて高齢の方は増えたけど、みんな助け合いながら元気に過ごしています」と話されるのは、元民生委員で長年この活動を行っている大川かゆりさん。20年前は約70人だった訪問先も、現在では約120人に。「気心知れた仲間と和気あいあいとやっています！」と**黒一点**、元教師で会長を務める庄司安道さんも、縁の下の力持ちとしてこの活動を支えています。



あったかふれあい訪問



あなわいは
ないですか？

新型コロナウイルスが蔓延する前は、みんなで手作りのお弁当を作って訪問していましたが、今はやり方を少し変えて一軒一軒訪問。準備している時から「**あの人元気にしているかな？**」と訪問する方の顔を思い浮かべているのは変わらないそうです。メンバーの皆さんも「高台が多い地域なので、しばらく会えていない人も多い」、「元気なお顔を見れたときは**ホッと**する」と、それぞれが地域の方を気にかけています。最近は特に閉じこもってしまう方も多く、訪問するとたくさんおしゃべりすることも。「みんなコロナで人と会わなくなっているから、会えるのを楽しみにしてくれています」。



高台に住む
のお宅へ

活動後のヒ・ト・コ・マ

訪問活動が終わった後は、みんなで一息つきながら「あの人元気にしとったかい？」「今度もう一回たずねてみるわ」など、気になる人や相談に乗った方がよさそうな人はいないか確認されていました。



気になる人は
おらんだかい？

私たちのまちにも！

地区福祉委員会は尾鷲市内の全地区にあるわけではなく、「わがらのまちはわがらで支えあおう！」と立ち上がった地区で自主的に活動しています。現在は14の地区福祉委員会が活動しており、社会福祉協議会がこの活動を応援しています。「私たちの町でも地区福祉委員会のような活動をしたい！」という方がいらっしゃいましたらぜひ一緒に活動しませんか？



・・・わごころ通信に関するお問合せは・・・

担当：尾鷲市社会福祉協議会 地域福祉課 総務・福祉係 Tel.22-3246 まで